

文・編集・発行 / 斉藤新緑 Tel 0776-82-1141 Fax 0776-82-2261
【斉藤新緑事務所】〒913-0046 福井県坂井市三国町北本町2-1-20 京福三国ビル2F
【e-mail】sinryoku@aurora.ocn.ne.jp
【ホームページ】http://www.ss.apdw.jp

ほっとらいん



人に、まちに、いま、
元気の種をまこう。

VOL.65

五月

室生屋星

悲しめるもののために
みどりがやく
くるしみ生きむとするもののために
ああ みどりは輝く



新緑です。福井県緑化委員長です。緑の募金をお願いします！

山は笑うが

「春すぎて夏来にけらし白妙の
衣ほすてふ天の香具山」

山笑う季節となったが、笑う
に笑えない時節である。

週刊誌の見出しが躍る。

「日本経済はこのまま死ぬの
か」、「もはや経済大国ではな
い」、「気がついたら世界の負け
組になっていた」、「日本国は食
べていけない」。

家計貯蓄率(90年代後半から
下がり続け、アメリカに抜かれ
先進国で最低に)、法人税率(40
%)で、中国・韓国の一・五倍以
上。外資が逃げ出す要因)、公的
債務残高(先進国で圧倒的ワー
スト1。国民一人あたり約七五
〇万円の借金)、公的債務残高
対GDP比(ギリシャでも11
5%、日本は189%の借金
率)、世界のGDPに占める
シェア(1990年14.3%
から2008年8.9%の減
少)、国際競争力(1990年1
位から2008年22位に転落)、
生産年齢人口(15歳~64歳、一
貫して減り続け、2050年に
現在の半分近くになる予測)、
国民一人あたりのGDP(20

00年世界3位から2008
年23位に転落。

国家財政は借金まみれで、
今年度予算額92兆円に対し、
税収は半分以下の37兆円、借
金は44兆円。このまま行けば、
2019年には国の借金であ
る公的債務残高が、国民の資
産残高を上回り、国家として
「破産」状態になるのは確実。

内閣支持続落25%、不支
急増61%(昨年9月の政権発
足時支持71%、不支持14%朝
日新聞世論調査4/19日付)
電信柱が高いのも郵便ボス
トが赤いのも、みんな自民党
が悪いと言っていたころは、
まだ良かった。

現実に政権交代が起きて、
高揚感と期待感でスタートし
た政権が、あつという間に期
待はずれになると、この国は
どうなるのか。

自民党がダメで、民主党も
ダメなら、次は、第三極、「み
んなの党」か、世論の支持率を
中心とした新党や次の選挙や
政局の話ばかり。
民意=世論とは何か、それを

誘導するものもつくるのも、調査
するものマス・メディア。
「好きか嫌いか」、「人気がある
かどうか」、「面白いかどうか」、
「視聴率はどうしたら上がるの
か」、政治がお笑い番組のようにな
れば、政治家がお笑い芸人の
ようになる。

イエスがノーか、悪いのは誰
か、極めて単純化された世論な
るものが作られ、それが、複雑化
した社会を動かしていくとなる
どうなるのか。

冷戦時代が終わわり、世界が一
つのマーケットになって、大競
争が始まった。

未曾有の少子高齢化、人口減
少社会、急増する社会保障費、コ
ンクリートにも人にもやさしく
できない財政状況。

日本という国は、このままい
くどんな国になるのかイメー
ジしなければならぬ。その
上で、日本という国はどうある
べきなのか。どんな国をめざす
のか。

そのために今、何をなすべき
か。
「政治家は次の時代を考え、政
治屋は次の選挙を考える」

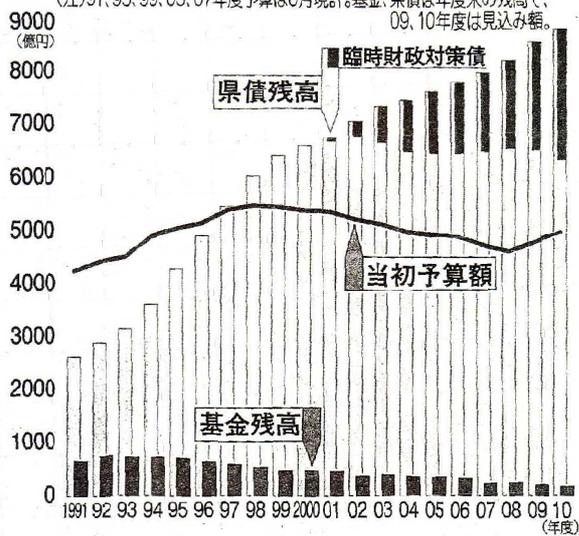
「歴史の峠」に生を受けたもの
の使命は、人間の明日へのビジ
ョンを描くことにあるとい
うが...

12年ぶり2年連続の増額予算

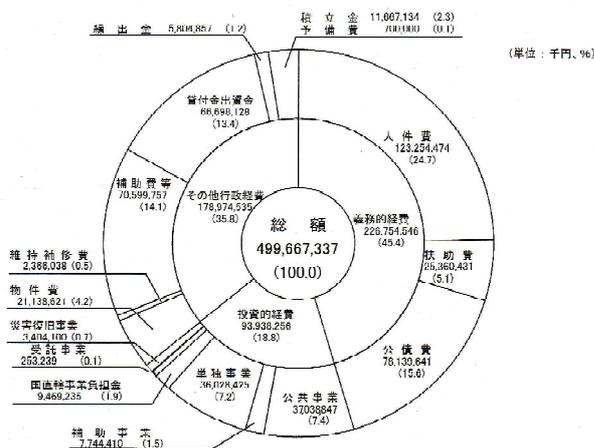
一般会計4996億円

県の当初予算規模、基金残高、県債残高の推移

(注)91、95、99、03、07年度予算は6月現計。基金、県債は年度末の残高で、09、10年度は見込み額。



性別歳出予算構成表(一般会計)



2月定例県議会は、2009年度補正予算案、一般会計当初予算案、条例改正案、意見書などを可決し、3月17日に閉会しました。

主なポイントについて報告します。

一般会計の特徴

一般会計総額は4996億円で、前年度より3.9%、約90億円上回り、2年連続の増額予算は12年ぶりとなりました。

増えたのは必要経費とも言うべき、義務的経費(2.7%、60億円増)と行政経費(17.8%、270億円増)で、公共工事など投資的経費は減っています。(マイナス13%、147億円)

減。

義務的経費では、人件費が前年度比99.1%、11億円減となったものの、生活保護などの扶助費は107.2%、17億円増、公債費(借金の返済金)は107.3%、53億円増となっています。

行政経費では経済・雇用対策もあり、補助金が118.9%、11.2億円増、融資制度など貸付金が115.6%、40億円増、通常経費である物件費が104.2%、20億円増となっています。

投資的経費は、新政権の「コンパクトから人へ」による公共事業費の大幅削減(対前年度比18.3%)の影響もあり、85年以來はじめて1000億円を下回りました。

これらの財源内訳としては、県税収入が法人2税を中心に102億円減の804億円に

厳しい財政見通し
県の借金である県債残高は今年度8800億円に達する見込みとなり、県の目標値を

590億円上回ってしまっています。

新幹線、高速道路など高速交通体系整備や今後の長寿社会に伴う社会保障費の急増を考えると、大変厳しい財政状態となることが予測されます。

経済・雇用対策
県内経済の早期回復を図るとともに、成長が期待できる分野への積極的な事業展開を促進。

(県内経済の活性化)
国の公共事業予算が大幅に減少することによる県内経済への影響を考慮して、県単独事業として対前年比56%増の予算を確保し、橋梁の長寿命化、道路、河川などの事業を前倒して実施する。

県内消費の拡大策として、10%のプレミアムが付いた「ふるさと商品券」を発行する。

今年度方針をどう見るか

(雇用対策)
介護や農林水産分野への就業を支援し、全体で4千人の雇用創出、卒業生に対する就職支援強化。

(中小企業の経営安定)
資金繰り円滑化支援資金を160億円に拡大、経営安定化資金と合わせたセーフティネット資金の融資枠560億円を確保。

成長分野である環境・エネルギー、医療福祉分野で事業を展開する企業に対する技術開発から販路開拓までの事業化を支援、建設業者の新分野進出を支援するための制度創設、建設業サポートセンター開設。

用意

教育

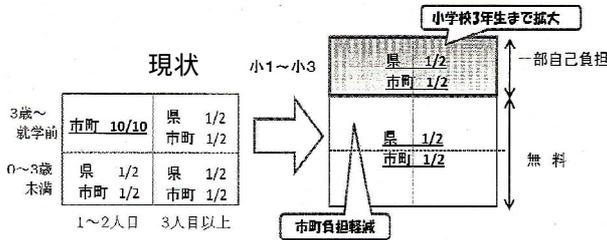
全国学力学習状況調査は、国は今年度より抽出調査となるが、福井県はこれまでどおり全員を対象に実施し、活用する。

県立高校の再編整備については、「奥越地区魅力ある県立高校づくり検討会議」から検討結果の報告があり、新たに開校する総合産業高校をはじめ、各高校の魅力づくりに生かす。坂井地区、嶺南地区についても具体的な実施計画案をまとめる。

文化振興については、県立音楽年度でのオーケストラ演奏など小学5年生が一流の芸術に触れる、ふれあい文化子どもスクールや白川静博士の生誕100年記念事業を実施する。

平成30年に開催予定の第73回国民体育大会について、「団体ビジョン」が示され、それを実現するため、「スポーツふくい基

子ども医療費無料化の対象を小学3年生までとする



<23年度までの新笑顔プランの目標>

学年	学級編制基準			学年	学級編制基準		
	19年度	22年度	23年度		18年度	22年度	23年度
小学校	1・2年 40人	40人	40人	1年 30人	30人	30人	
	3・4年 40人	40人	40人	2・3年 36人	33人	32人	
	5年 40人	36人	36人				
	6年 36人	36人	36人				

6年生までの希望者がすべて入会できるように空き教室の利用を進める。

健康長寿ふくい

がん検診受診率の向上をはかるため、市や町が発行する受診券や料金を県内で統一し、検診を受けやすい環境を整備し、費用についても市や町を応援する。

9月にがんせい圧全国大会を福井で開催する。陽子線がん治療施設は建築工事が完了し、来年3月の治療開始をめざす。治療費は自由診療で自己負担となるが、基本料金は全国より低い額で240万円に設定する。

観光振興

「目玉となる観光地づくり」は、本県定番の拠点となる観光地を対象としたもので、東尋坊の石畳舗装や永平寺町の門前街各店舗の外観統一などを支援する。

「第二次福井県元気な子ども子育て応援計画」に基づき、まず、子どもの医療費助成の対象を小学3年生まで引き上げ、全国トップレベルの支援制度に拡充。放課後子どもクラブについて、小学

農林水産業の振興

戸別所得補償制度を有効に活用し、集落営農組織や認定農業者等の育成に力を入れ、規模拡大に伴うコスト削減や販売価格を高めることにより、農業所得の向上につなげる。

「さつき半ばの田植え」を本格実施するため、JAと一体となった苗の供給推進、企業への「田植え休暇」の導入を働きかける。

「奥越さといも」の選別加工施設の整備や生産組織等への支援を

はじめ、ネギやにんじん、ホウレンソウの契約による生産拡大等により、来年度の園芸産出額を今年度の目標である116億円から120億円に拡大する。

林業については、集落全体で効率的な間伐や主伐を計画的に進め、供給体制を整備する。

水産業は、消費者の魚離れ、魚価や漁獲量の低迷が続い

環境

電気自動車やプラグイン・ハイブリッド車などの次世代自動車を中心に先駆けて普及再生を図る。

自然再生として、ふゆみず田んぼなど、多くの生物が生息し、コウノトリなどの飛来する環境の再生を図る。

行財政改革

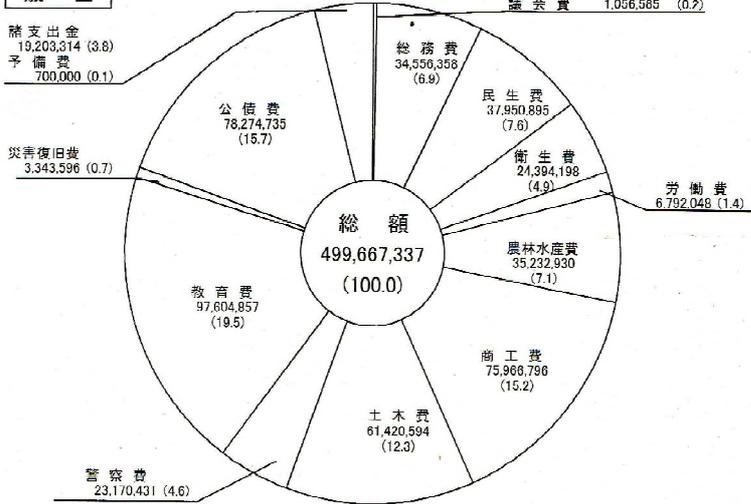
土地開発公社と住宅供給公社の解散。地価の大幅な下落に伴い差損が生じるとともに、土地の売却が進んでおらず、解散に伴い、土地買収や差損処理のため74億円が必要となる。電気事業売却益の一部を充当させる。

県職員勤務時間短縮

県職員公立学校の教職員も対象の一日の勤務時間を十五分間短縮した「七時間四十五分」にする条例改正。国家公務員が昨年四月から七時間四十五分勤務に移行しており、それに準じたもの。

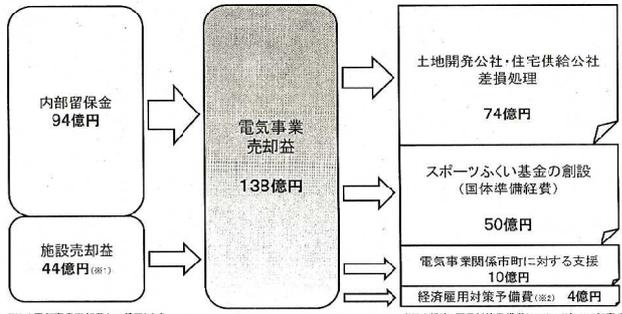
最終時間が、現在の五時三十分から五時十五分になる。始業時間は従来どおり午前八時半のまま。週の勤務時間は、現在の四十時間から三十八時間になる。

歳出



電気事業売却益はどいく

138億円の埋蔵金？



(※1) 電気事業売却益(75億円)から繰上償還(20億円)、国庫補助金返還分(1.6億円)、消費税(3.6億円)、借金引越退職手当(5.4億円)等を控除した額
(※2) 経済・雇用対策予備費については、22年度当初予算において6億円計上予定(21年度同額)

県は県営の水力、風力発電所を北陸電力(株)に売却して、売電などによる内部留保金94億円と施設売却益44億円を合わせた138億円を一般会計に繰り入れる。

県土地開発公社、県住宅供給公社を解散

備えた基金積み立てに50億円、電気事業関係係市町に対する支援に10億円、経済雇用対策予備費に充てられる。

福井県版の埋蔵金ともいっべき138億円の使いみちとして、今年度末に解散する県土地開発公社と県住宅供給公社の清算に74億円、2巡目福井団体に

新行財政改革実行プランに基づき、県土地開発公社と県住宅供給公社は今年度末に解散。負債など、清算に必要な費用73億8千万円を県が売却益で全額肩代わりする。

両公社は、福井空港拡張計画などの公共事業用地や良好な居住環境を確保するため、バブル期に土地を先行取得したが、地価が大きく下がりに、帳簿上の取得原価(簿価)との多額の差損が発生。

事業中止、景気低迷などで売却見通しが立たず、塩漬け状態の土地や未分譲宅地を抱えたまま、土地開発公社の負債はこれとは別に、同公社が所有する坂井市の福井空港、福井市のJR福井駅付近連続立体交差事業の関連用地計11件、6万6800平方メートルを9億7千万円余りで購入する。

住宅供給公社は、あわら市の「花乃杜ハイツ」、自由ヶ丘あけぼの団地で未分譲宅地、未造成地を抱え、負債は14億

4500万円に上る。購入資金を借りた金融機関への利払いなどで公社経営や県財政が圧迫されている。

土地開発公社・住宅供給公社の解散に伴う県負担額について

土地開発公社	住宅供給公社	保有地の売却促進	22年度末解散
借入額(土地の簿価) (福井空港関連用地) (45.8億円) (福井駅付近連続立体交差事業代替地) (34.5億円)	借入額+業務経費 19.3億円①	県負担見込額 73.8億円 財源: 電気事業売却益	
公社留保金 21.0億円②	土地の売却代金 3.2億円②		
県負担額 ①-② 59.3億円 (土地購入費 9.8億円 清算補助金 49.5億円)	公社留保金 1.6億円③		
	県負担額 ①-②-③ 14.5億円 清算補助金		

県負担額内訳

○土地開発公社 単位:千円

区分	未売却 (H21.11月末現在)	借入金(簿価) A	公社留保金 B	土地の売却 C	差損 A-B-C	予算額	
						土地購入費	清算補助金
福井空港関連用地	9箇所	4,583,068	2,100,000	-	5,934,845	830,264	4,957,681
福井駅付近連続立体交差事業代替地	2箇所	3,451,777				146,900	
計	11箇所	8,034,845				977,164	

○住宅供給公社 単位:千円

区分	未売却 (H21.11月末現在)	借入金等 A	公社留保金 B	土地の売却 C	差損 A-B-C	予算額	
						土地購入費	清算補助金
あけぼの団地分譲宅地	13区画	1,924,521	158,713	320,891	1,444,917	-	1,444,917
花乃杜ハイツ分譲宅地	23区画						
社賃貸住宅	4棟、5棟申請						

公社運営の失敗を総括せよ

7発電所が立地する大野市など電気事業関係5市町に対する地域振興事業に売却益の7%相当に当たる10億円を配分する。

内訳は、大野市の7億6300万円が最も多く、勝山市2億1100万円、坂井市1400万円、南越前町1000万円、福井市200万円。発電所設置からの累計発電電力量の割合で

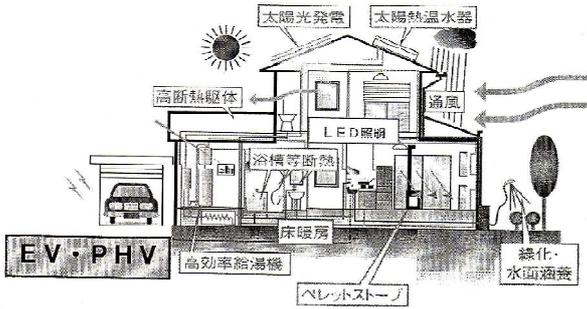
接の租税をここに投入するのはなかなか厳しい。残念な面もあるが、売却益を使わせていただきたい」と理解を求めたものの、74億円にもぼる損失額を生みさせた土地開発公社、住宅供給公社の経営上の失敗について、「謝罪もなく、どこに問題があったのか、原因をきちんと総括せよ」との厳しい批判があり、釈明があ

った。

福井県EV・PHV普及推進マスタープラン

平成21年3月、福井県は、運輸部門における低炭素社会の実現に向けて、経済産業省より東京都や京都府等とともに「EV・PHVタウン」に選定されました。

「EV・PHVタウン」とは、電気自動車(EV)、プラグインハイブリッド自動車(PHV)の本格普及に向け、地域性に合った普及策を検討し、今後積極的に推進していく地域のこ



EV関連の新たなビジネスチャンス、雇用機会の創出

◆福井県の特徴

- ・一戸建で自分の家 ⇒ 太陽光発電設備、ヒートポンプ給湯器が設置しやすい
- ・車庫のある環境 ⇒ 充電コンセントが設置しやすい
- ・母さんも車で通勤 ⇒ セカンドカーとしてのEV・PHV活用

ゼロカーボン・エコツーリズムプロジェクト
EV・PHVの活用による環境負荷ゼロを目指した観光スタイルの確立と観光の活性化

エコシティEV・PHV活用プロジェクト
EV・PHVを活用した人と環境にやさしいエコシティへの転換

クリーン・アンド・セーフティ走行プロジェクト
「クリーンエネルギー先進県」の発信と安全安心な充電インフラ整備

EV・PHVの普及による県民生活の低炭素化
（普及に向けた取り組み）
ゼロカーボンライフ プロジェクト

EV・PHVとは... 環境に優しい自動車です

平成21年以降、国内外の主要自動車メーカーが、一斉にEV・PHVの販売を開始しています。また、国内のベンチャー企業等もEVへの参入を進めています。今はなじみの薄いEV・PHVですが、5年後、10年後には頻繁に見られるようになっていくでしょう。次世代自動車であるEV・PHVについて、以下に簡単に紹介します。

電気自動車 (EV)

100%電気で動く車！

(しくみ)

エンジンの代わりにモーターを搭載し、ガソリンの代わりにバッテリーに蓄えた電気を使って走る自動車です。燃料を燃やして動力にする必要がないため、走行中は排気ガスを全く排出しません。

特長

1. CO2を約70%以上削減！
2. 電気代は1kmあたり約3円！
3. 充電走行距離は最大160km！
4. 家庭のコンセントで充電可能！

走行時に排気ガスを操出せず、大気汚染を防ぎます。
普通充電なら約5時間～14時間でフル充電、急速充電なら約15分～30分で80%まで充電できます。

プラグインハイブリッド車 (PHV)

充電できるハイブリッド車！

(しくみ)

ハイブリッド車に比べ大幅に電池容量を増やすことにより、電気での走行距離を拡大した上に、電気を使いいきり、電気での走行が出来なくなった後は、通常のハイブリッド車と同様に走行することができます。

特長

1. ハイブリッド車より環境に優しい！
2. ハイブリッド車より燃料代が大幅に低減！
3. 電気のみで約20km走行可能！
4. 家庭で3時間の充電でOK！

電池残量が少なくなれば、ハイブリッド車と同様にガソリンで走行することができます。



新緑の眼



目には青葉 山ほととぎす はつがつお 初鯉

新年度がスタートしたが落ち着かない。毎日のニュースや出来事が、たれ流しのように、騒々しく「空騒ぎ」のように感じるのは、年のせいも、もっと静かに、シンプルにいたいという願望からか。

何が大事な問題で、それを解決するためには、どんな手段と手法があるのか、その選択肢を並べ、優先順位の高いものから、計画的に実行するというところに過ぎないのに、それを個別断片的に、面白おかしく、興味本位に煽ることによって、ますます問題を見えにくく複雑化し、解決を遠ざけてしまうように思える。

高度情報化社会では、過剰な情報によって、社会の複雑性と不確実性はかえって増大するようだ。各種メディアから提供される過剰で大量の情報、消化しきれず、批判も吟味もしないまま鵜呑みにしてしまい、思考力や判断力を衰弱させ、主体的に判断する

ことが少なくなる。そこに、巧妙な情報操作の罠が入り込み、人々はこれらに支配されやすくなるという。

県の将来ビジョンについて、地域での議論もはじまったようだ。しかし、何か作成を急ぎ過ぎていっているように思えます。

お役所仕事として、とりまとめることを目的化すれば、もっとも大切な、県民が「考える」ということから遠ざかります。

私たちが今どんな状況の中で生きており、将来はどうなっていくのか、どう対応していくのか、どんな社会を求めていくのか、そうした基本的なことを考えてもらう材料を提供して、議論を重ねることが将来ビジョンを描く上で重要に思えます。

グローバル化によって、固有の文化が混合され、平均化されて、単一のグローバル文明が形成され、人々の欲望と行動も画一化、一様化されようとして

います。

その結果、伝統的な価値観、文化の型や支柱を失い、何が善であるかという信念すらゆらいでいます。



「関西広域圏に入ってよ」と橋本大阪府知事

す。関西広域圏、道州制など地方のあり方や県庁移転などのブランドデザインを描くこと、その上で、当面する財政上の問題など「虫の目」も必要だと思ふのですが、はじめから計画づくりがあつてビジョンを描くのではなく、どこに向かうのかという大局観が大事だと思います。

年一度の総会 2月定例会では、本年度の最終の補正予算と次年度の当初予算が提案されます。

以前にも書きましたが、これは、当初予算はボリュームが多いので、通常の議会と同じ一日では不十分と判断した方針を決める年一回の総会だといえます。

しかし、提案される議案は、予算案だけで、方針案というものはありません。

予算は、部局別課別事業予算ですから、行政分野ごとの事業主義となり、単発的なものになりがちです。

行政の縦割りでなく、全体として総合的に考える視点が必要不可欠です。

子どもを対象とした事業や環境対策事業なども、数多くあり、それらをもっと包括的に捉えることや、中長期的視点の中での単年度の位置づけということも大事です。

現状の分析から、めざすもの、優先すべきものなどもっと考えるべき要素があるように思えます。

グローバル化、厳しい財政状況を踏まえると、今日の行政組織のあり様、単年度予算編成主義というものについて、再考することが必要です。それは、まさに予算案ではなく、方針案ということかもしれません。

今回より常任委員会での審議日程を2日間としました。

これは、当初予算はボリュームが多いので、通常の議会と同じ一日では不十分と判断した方針を決める年一回の総会だといえます。

通常、団体等では、決算書や予算書には、前年度の予算額や決算額も記載され、増減額など比較してありますが、県議会の議案書には、記載されていません。

従って、自分で前年度の予算額を拾い上げ、増減を比較しなければ、真の数字の意味は見えてきません。

果たして、何人の議員がそれぞれをしっかりと見えてきたか、それらをつぶさに検証すると思えないものが見えてきます。

事業名だけでわかったような気である、中身は全く想像したものと違うこともよくあり

ます。

ます。

ます。

「議会がチェック機能を果たしていない」という指摘もありますが、数字を追うことは、審議のベースとなるものです。

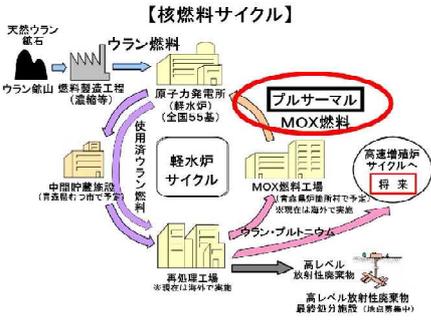
しかし、審査するといつても、その仕方というかが、「させられ方」が問題です。

議案書をはじめ、審査資料が、チェックしやすいものか、問題点を浮き彫りにするものか、隠すものか、都合の良い部分だけを審議させられていないか、慎重審議といつても、議員間、知事部局と議会、メディアなど一口にいえない「空気」がありますから、丁寧な審査を当たり前にすることが求められます。

随分とこれまで、資料の改善や審査の手順など改善してきましたが、今回、改めて問題意識を持ちました。

審査マニュアルを作成し、それを一目でチェックできる資料があれば、かなり数字上の問題などは解決できるかも知れません。

いずれにしろ誰が任務にたつて実行できる審査基準、手順のルール化を考える必要があると考えます。



高速増殖炉原型炉「もんじゅ」の運転再開については、結果として、知事が4月28日原子力機構に対し、正式に了承を与えました。

これにより、95年(平成7年)12月のナトリウム事故以来、14年5ヶ月ぶりに、運転が再開されることになりました。

今議会の目玉は、「もんじゅ運転再開の議論」と、メディアは書きたてましたが、05年に改訂工事着手して以来、節目節目で県の了解や国の安全審査の手続きがあり、運転再開をめざして、対応、協議がなされてきました。

議会は、休止していた14年間、「もんじゅ」といっしょに眠っていたわけではなく、少なくとも毎議会ごとに、現状について

4月26日、知事が川端達夫文部科学相らとの三者協議で運転再開の意向を示し、「知事、もんじゅ再開了承」と新聞の見出しが躍った翌27日深夜、ナトリウム漏えい検出器1台が故障しました。

部品交換して、約5時間後に復帰できたものの、この時期に及んで何ともタイミングの悪いものでした。

また、議会に対し、説明・連絡がなく、「信頼」関係の問題として、日本原子力研究開発機構の岡崎理事長らに改めて、早急に原因を究明すること、手続きやルールを守る

いての報告を受け、運転再開について、検証してきましたので、今議会を焦点にしてきたわけではありません。



川端文部科学大臣と面談

再確認しました。5月6日「もんじゅ」の運転を再開するといつても、いきなり100%出力するわけではありません。今後の「もんじゅ」性能試験の全体スケジュールは、左図に示した通りです。

まず、出力ゼロで炉心確認試験を約2ヶ月半実施します。その後1年休んで、設備点検など実施し、来年の5月6月ごろに、40%出力プラント確認試験を開始し、6ヶ月運転します。その後、10ヶ月休んで、設備点検し、平成24年8月9月ごろから、100%出力上昇試験を7ヶ月間実施する予定です。

スケジュールをみますと、大変な時間を要することがわかります。もんじゅが初運転したのは平成6年4月、ナトリウム漏れ事故を起こしたのは、平成7年12月、40%出力プラント確認試験の最中に起きました。

もんじゅの運転費は、平成22年度233億円(補修費を含む)を計上しており1日あたり約6千4百万円となります。14年間眠っていたプラント

を動かすことは大変なことですが、今回の運転再開が国策としての今後の判断を決するものになると考えます。引き続きしっかりと監視の目を光らせませう。

過去最多の意見書30件

政権交代後の県議会の運営は、「民主党にあらずんば陳情に任せず」という民主党本部の姿勢が影響してか、議会全体で構成していた議員連盟から民主党会派が脱退し、民主党だけの与党議員連盟を立ち上げるようなことが起きました。議会最終日の過去最多の意見書は、そうした民主党政権に対して自民党会派が提出したものです。

性能試験の全体工程

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
10~3月	4~9月	10~3月	4~9月	10~3月	4月~
プラント確認試験	性能試験前準備(点検・起動準備)	性能試験	性能試験	性能試験	本格運転
		2ヶ月半 ←1年間休み→	6~7ヶ月 ←1ヶ月休み→	7~8ヶ月	
		炉心確認試験	40%出力プラント確認試験	100%出力上昇試験	
		燃料交換	燃料交換	燃料交換	
		設備点検	設備点検	設備点検	
		水質検査点検・運転試験			
		屋外検査クワータンク設置工事			



日本原子力研究開発機構幹部と面談

乳母車

三好達治

母よ……
淡くかなしきものふるなり
紫陽花いろのものふるなり
はてしなき並樹のかけを
そうそうと風のふくなり

時はたそがれ
母よ 私の乳母車を押し
泣きぬれる夕陽にむかって
りんりんと私の乳母車を押し

赤い糸ある天鷲絨の帽子を
つめたき額にかむらせよ
旅いそぐ鳥の列にも
季節は空を渡るなり

淡くかなしきものふる
紫陽花いろのものふる
母よ 私は知っている
この道は遠く遠くはてしない道



ホームセンターで買った
木瓜の花が今年も咲いた。
「あれは梅か」と尋ねた母は今
年いない。
まさに「年年歳歳花相似たり
歳歳年年人同じか
らず」。

(花は毎年同じよ
うに咲くけれど、
それを見る人は決
して同じではない)

何ともさびしい
かぎり、元の年末
の露、命のはかな
さ、生命無常をつくづくと感じ
る。



新幹線の陳情で上京して、ホテ
ルの一室で本を読んでいるときに
鳴った娘からの電話は「おばあ
ちゃん!」という悲鳴だった。
風呂での溺死だった。いい気持
ちで眠ってしまったのだらうか。

しかし、元氣な親が突然死し
て、死に目に会えないということ
は「さよなら」もありが「つ」
の一言も言えずじまいで、何とも
心残りである。
春風の花を散らすと見る夢は
覚めても胸のさわくなりけり

(西行)

満開の桜が人を魅するのは平
然と花びらを散らしてやまないそ
の豪勢さにあるという。
花が散ってしまうのが惜しくて

新緑の気ままにトク

胸がさわくのでは
なく、花が散る情景
そのものがあまり
に美しいために、夢
の中の胸騒ぎが、
目覚めた後でもな
お続いているとい
う。

今年、桜の開花
宣言が出されたの
は、4月2日(金)警察学校の入
校式の日だった。
並ぶ顔みな美しく、思わず、挨
拶で、「清水へ祇園をよぎる桜月
夜こよひ逢ふ人みなつくしき」
という与謝野晶子を口にしてし
まって、何だか場違いだったよ
うな気がしたのを覚えている。

「春に三日の晴れなし」とはい
うものの、今年の春は異常なまで
に天気が悪く、寒かった。
新宿御苑での「桜を見る会」に
招待されたものの、雪が降り、
コートに傘という冬装束。
菊川怜もダウンジャケットだっ
た。

「花に嵐のたえもあるさサヨ
ナラだけが人生」と桜が散ると
「ゆさゆさと春が行くぞよ野辺の
草」(一茶)
梅から桜までは、いろんな花が

咲くたびに「春が来た」と感じる
が、その後の八重桜、ハナミズキ、
フジ、ツツジは「春が行く」。
わが家のチビツ子たちも、高
校を無事卒業して、一人は社会人、
一人は看護学校へと早々と進路を
決めた。自分でさつさと判断した
その「キレ」は見事。人生は「キ
レ」が大事といたいが、二人そ
ろって県外の大学へでも行くとい
うたらどうしようかという親の
心配が見透かされたのではないが
県外での長期研修や授業を受けて
疲れてグッタリ寝ているのを見る
と、何だか恐縮してしまう。

その末の娘が、初月給で飯をお
ごちやるといので、家族そ
ろってかけたのだが、料理が運
ばれてくるまで、三人娘はいっせ
いに携帯電話を広げて、メールを
打ち込んでいた。
四六時中携帯電話とにらめっこ
し、挙句の果てに
携帯電話を握りし
めて電気を消し忘
れて眠っているの
を見ていて、何
だか携帯電話と
「レッドカーベツ
ト」に支配されて
いるような、とん
でもない時代のよ

つに思える。
突然あつちこつちで、け
たたましい音楽(着メロ)
が鳴るのは一種の騒音だ。
着メロといえば、思い出
すのは、かつて、JA関係
者らと軽ワゴンのオンボロ
車で、淡路島まで視察に
行ったとき、たまりかねた畜産課長
が、「この車、なんだケツベタがイ
テエンヤ」と叫んだのだが、そのと
き、そのケツベタからあることが
か、ムソルグスキーの展覧会の絵
が流れ出した。何だか臭ってくる
ように。



5月2日第22回坂井市古城
カップサッカー大会(92チーム、1
800名参加)
開会式に突然、市長と協会長にP
Kを付けてもらうといわれ、市長
はゴロで付けてください、キーパー
はとりません。協会長はキーパーが
きちんと反応しますのでお願いし
ます。というので、ト
キツとした。
小学生が見ているの
で、協会の面目にかけ
て、しっかりと入れなけ
ればならないかと思
い、力いっぱい蹴った
ら、と真ん中に入っ
た。
すごいシュートだっ



たとみんなに言われたのだが、
なぜか、キーパーがよけてい
た。考えてみればおかしな話
で、始球式ならとるはずがな
い。とっさのことで、役員
の言葉を真に受けてしまっ
た。
始球式といえば、昔、バ
レーボールの始球式でサーブ
を打つとき、監督が子どもた
ちに「ボールが来ても受けて
はダメですよ」と教えているの
を耳にしたが、なんとボールを
ネットに引っ掛けて、コートに
で届かず、申し訳ない思いをし
たことがある。
今回も枠に入らなかつたら変な
ものだったろうと冷や汗をかか思
いがあとになって、膝の痛みと一
緒に出てきた。
娘たちと「タメ」の石川遼が58で
回って逆転優勝したという日に、
(杜甫)
「人生幾何ぞ、春已に夏なり」
はや五月、立夏。あわただし
く、めまぐるしく時が過ぎる。
何だか、いつも何かに追いか
けられ、毎日を消化しているか
のような気になってくる。
「一日の命、万金よりも重し」
というのに……
ほつとらいん65号お待ちせし
ました。書き始めて1ヶ月も経
過してしまいました。おたより
お待ちしております。

せうすく「母の日」……。